

令和5年度 東京都立府中けやきの森学園 学校経営報告

1 今年度の取組目標とその達成に向けた具体的方策と成果

【自己評価】◎：高い水準で達成（目標値10%超）、○：達成（目標値超）

△：一部未達成（目標値20%減まで）、×：未達成（△に至らない）

(1) 経営目標の明確化と共有

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

①QOLの向上につながる学びを目指した教育の充実〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足81.1% 教職員：満足92.3% 平均：86.7%

- ・「東京型教育モデル」の3つの学び（意欲を引き出す「学び」、社会全体に支えられた「学び」、ICTを活用した「学び」）に基づく教育活動を全教職員で推進した。
- ・「意欲を引き出す学び」については、視覚教材の工夫、構造化された環境、児童・生徒が自ら課題を発見・設定できるような発問の工夫などを行い、研究授業等で相互研さんを行った。
- ・「社会全体に支えられた学び」については、小・中・高等学校との学校間交流を保護者間交流も含めて重層的に実施するとともに、地元の小・中との直接副籍交流を44名について実施した。また、警察や消防と連携した、セーフティ教室や防災訓練の取組、企業と連携した社内一日体験や、遠隔社会見学、ラグビーチームとの協働体験なども行った。さらに、調布特別支援学校と駅前花壇の整備など地域貢献活動、府中工科高校、三鷹中等教育学校とのeスポーツの体験交流などを実施した。
- ・「ICTを活用した学び」については、すべての児童・生徒に対して日常的に授業で活用するようになってきた。調べ学習、タブレット上の問題解答、学習者間での意見交換・共有、また、見えにくい位置の物の呈示、視線入力アプリの活用など、学級や学習グループで様々な活用がなされ、個別的な学びや協働的な学びが深まっている。また、肢体不自由教育部門で準ずる教育課程では、引き続きデジタル教科書の活用に関する研究を都教育委員会と連携して進めている。

②各学習のねらい、評価規準（3観点評価）を明確にした保護者への説明と課題の共有〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足89.2% 教職員：満足82.1% 平均：85.7%

- ・個別指導計画の目標設定の際、3観点を取り入れること及びそれに基づく保護者への説明を行い、目標の明確化と家庭との共有を図ることができた。
- ・3観点評価について一人1実践で取り組んだ教員からは、良さと課題点が挙げられ、次年度に向けた改善の手がかりとなった。

③学校経営方針の周知徹底〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足82.7% 教職員：満足81.6% 平均：82.2%

- ・学校経営方針を広く知ってもらうために、広報活動を充実させた。ホームページの更新回数は311回に達した。（前年度末201回）
- ・毎月の学校だよりで、本校の経営方針を丁寧に説明するとともに、各学年だよりを含めて、教育活動の様子を視覚的に伝わる工夫をしながらこまめに発信した。

(2) 経営目標の達成に向けた研究活動の充実

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

①QOL（生活の質）の視点に基づく研究活動の導入（◎）

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足81.1% 教職員：満足92.3% 平均：86.7%

- ・7月21日に実施した、全員参加型研修会をとおして、各学部のQOL研究の成果を教員間で聞き合い助言者からの指導を受け年度末のまとめに向けた課題を確認した。
- ・今夏のQOLに関する研究会を終えた時点でのアンケートでは、平均で82%の教員が「自己の授業改善につながる学びが深まった」と回答した。
- ・3年間の研究成果を「QOL研究3年間の歩み～自分らしく成長する学び～」の冊子として、全校での取組と学部ごとの取組に分けてまとめ、共有した。

②教育目標を達成するための授業改善の実施（○）

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足73.6% 教職員：満足78.9% 平均：76.3%

- ・全教職員が一人1実践(研究授業(35.6%)・教材制作及び活用(41.5%)・3観点評価記録(22.8%)から選択)を行い、授業改善を図った。
- ・全研究授業(160回)を主幹教諭以上が原則複数で授業観察(校長による授業観察88回を含む)し、授業後のフィードバックを行った。
- ・令和3年度の「学校の教育目標の改訂」、令和4年度の「学校の教育目標を達成するための基本方針のブラッシュアップ」に続き、本年度「指導の重点」の各項目の授業での実施状況を把握し、必須項目の確実な実施とQOL研究の「自分らしく成長するための学び」の観点から取捨選択を行った。

(3) 教育効果を高める環境整備の徹底

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

①「4S（整理、整頓、清潔、清掃）」の徹底（◎）

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足87.0% 教職員：満足92.3% 平均：89.7%

- ・安全点検日に4S「整理、整頓、清潔、清掃」活動を推進した。日頃から、廊下の物品の管理、職員室等のクリーンデスク、廊下・教室の壁面の作品展示などの有効活用を呼びかけ、教員間の意識に根付き共有できた。
- ・学校薬剤師による指導・助言の下、各学級において教室換気、室温・湿度等を定期的に行い適切に管理した。

②GIGA端末やスマートスクール端末を活用した児童・生徒の学びを深める教育の推進（△）

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足57.0% 教職員：満足75.3% 平均：66.2%

- ・全教員が児童・生徒の実態に応じて、ICT機器を活用した授業を実施した。その際、校内支援体制（支援サポーターの導入等）を整え、協働した。
- ・肢体不自由教育部門（準ずる教育課程）におけるデジタル教科書の活用について、都教育委員会と連携し教育内容の充実を図るための研究を推進した。（指定研究事業）

(4) 健康と安全に係る教育（支援）の充実

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

①健康教育の充実（○）

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足65.8% 教職員：満足77.6% 平均：71.7%

- ・都教育委員会の「歯と口の健康づくり」事業の指定校2年目となり、学校歯科医等の専門家と連

携し、児童・生徒の摂食機能と適切な指導方法に焦点を当てた研究成果をまとめ、他の特別支援学校向けに研修センターにおいて成果発表を行った。

- ・心の健康教育に関し、切れ目のない支援体制の構築を目指して、多摩府中保健所と共同で制作した「SOSの出し方に関する教育」の普及啓発ツール「モヤモヤって何だろう」を使い、卒業後に向けて地域の支援者も招待し、両部門高等部の生徒を対象に公開授業を行った。

②安全教育・安全管理の充実〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 86.3% 教職員：満足 86.5% 平均：86.4%

- ・児童・生徒自身の「危険を予測し回避する能力」の向上に向けて、毎月実施の避難訓練（火災・地震・水害・竜巻・Jアラート）の充実を図った。
- ・民間のバス会社から実際に営業しているバスを派遣してもらい、乗車マナーなどを学ぶ交通安全教室を実施した。
- ・府中市防災危機管理課、府中消防署、都立公園、社会福祉協議会と連携し、全児童・生徒が消火体験、起震車体験、防災グッズ制作、仮設トイレ設営などの各ブースを体験し、自助・公助を学ぶ全校総合防災訓練を実施した。
- ・府中市防災危機管理課と連携し、高等部生徒を対象に避難所設営講座を実施した。
- ・大規模地震を想定した引き取り・引き渡し訓練に併せて、地域町内会の協力も得て高等部1年生を対象とした宿泊防災訓練を実施した。その際、教員による発電機起動訓練も行った。
- ・児童・生徒の安心・安全の確保を図るため、以下のとおり、学校の施設及び設備の改修工事等を進めた。
 - 1：夏の暑さ対策のため全教室への窓用クーラーの設置
 - 2：校内エレベーター3か所の更新改修（令和6年度順次実施）
 - 3：廊下の床のめくれの補修

(5) 本校の喫緊の課題解決

【数値目標】学校評価アンケートにおける評価結果：肯定的評価70%以上

①新型コロナウイルス感染症の発生や感染拡大のリスクを低減させるための対策〈◎〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 79.8% 教職員：満足 84.8% 平均：82.3%

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられた後も他の感染症とともに、学校医、学校歯科医、学校薬剤師等と連携し、基本的感染防止対策を講じた。
- ・校内では、基本的感染症対策のうち、手洗い、定期的な2方向換気、手指消毒を呼びかけ、教職員間、児童・生徒間で共有し徹底した結果、クラスターの発生や学級閉鎖に至ることはなかった。

②「学校における働き方改革推進プラン」に基づく教職員のライフ・ワーク・バランスの推進〈△〉

※学校評価アンケート結果 → 保護者：満足 64.2% 教職員：満足 60.5% 平均：62.4%

- ・月に1回、教職員の働き方（在校時間、業務内容等）を把握し、長時間勤務の是正に努めた。
- ・年間の年次有給休暇等の取得について目標値を定め、計画的な取得を促した。
〈目標値〉年次有給休暇取得：15日以上（達成率：92.5%）夏休取得：5日（達成率：100%）
- ・男性の育児休暇取得を推進した。
- ・次年度に向け、夏季休業中の水泳指導を廃止し、学期中の水泳指導期間を延長することで、夏季休業中の教員の負担を軽減し、研修時間の確保を図ることを決定した。
- ・給与明細電子発行率の向上に努め、経営企画室の作業効率の向上を図った。（達成率：93.9%）
- ・希望者一斉時差勤務（前倒し1時間）を2回実施し、効率的な業務遂行により早く帰宅できる良さを体験できる機会を設けた。

2 次年度以降の課題と対応策

本校に在籍する児童・生徒には、本校での教育をとおして、卒業後の人生を生きていくうえで、その土台となる様々な資質・能力を在学中に身に付けてほしいと願っている。これまで、本校では、児童・生徒のQOL（クオリティ オブ ライフ「生活の質」）の向上に着目し、「自分らしく成長するための学び」のために必要な授業改善を図ってきた。この取組は次年度以降も引き継いでいく。

今後、流動化し、先が読めない社会を生き抜いていくためには、自ら課題を発見・設定し、解決したり周りと折り合いを付けていったりする力を付けていくことが必要となる。そのためには、根拠をもって自分で選択し、決定する経験をたくさん積むことが大切となる。それが、将来、自他ともに幸せにより良く生きることにつながると思っている。

そこで、次年度以降、今年度までのQOL研究の成果を引き継ぎ、将来社会の中で生きていく児童・生徒の姿をイメージしながら、「ウェルビーイング」をキーワードに、校内研究を進めていく。教育活動の土台には、教育課程があり、より良い教育内容の設定や組み合わせを、限られた授業時数の中でどう組み立てていくか、年間指導計画や単元計画にどう取り入れていくかといったカリキュラム・マネジメントを進めていく。そこで、全校の研究テーマとして、「ウェルビーイングを目指したカリキュラム・マネジメント」をかかげて教育課程の改善、また授業の改善・充実を図っていきたい。

併せて児童・生徒が健康で安心・安全に学校生活をおくることができる環境を整えることももう一つの柱として引き続き取り組んでいく。

○目指す学校

児童・生徒のウェルビーイングを目指し、児童・生徒の将来を見据えた教育活動を展開する学校
児童・生徒が健康で安心・安全に生活することができる学校

○経営目標の策定

児童・生徒が「自ら未来を切り拓いていくための学び」を基盤とした教育活動を推進する。
児童・生徒が効果的に学ぶことができるよう、様々な側面から配慮した環境を整える。